

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2018

3月

No.153



特集 P2・3

第3次地域福祉推進計画

支え合いふくしプラン

平成28年度～31年度

29年度(2年次)終了

地域が元気になる
支え合い活動を推進



ひ孫と
いっしょ

シリーズ152

山崎町三津

おさき よりこ

尾崎 順子さん(86歳)

かい 海くん(10歳) とく 徳くん(7歳)

じゆんじ あやか
深田 純慈さん・彩香さん

■長男・次男



「自治会の枠を超えた広域的な集いの場」として、波賀町北部(日ノ原・音水・鹿伏・道谷・戸倉)合同のふれあい喫茶が開催されました(11/23 鹿伏公民館)



「宍粟市社協第3次地域福祉推進計画(愛称:支え合いふくしプラン)」の2年次の取り組みがこのほど終了します。

今月号では、29年度の推進状況を報告するとともに、30年度に重点的に進めていく取り組みについて説明します。

支え合いふくしプラン 2年次の取り組み

「だれもが安心して暮らせるふくしのまちづくり」・「ほっとけない」を「ほっとかない宍粟に」を地域福祉目標として定めている、第3次地域福祉推進計画(愛称:「支え合いふくしプラン」)。

29年度は、支え合いふくしプランの2年次として掲げたさまざまな支え合いの活動や取り組みについて提案・推進しました。

9月には、**支え合いの地域づくり講演会**を開催し、ご近所福祉ワリエーターの酒井保さんを講師に、『ホンモノ』の支え合い



講演では、「あなたの地域は支え合っていますか?」との酒井先生の質問から始まりました(9/2 神戸小学校体育館)

て何だろう?』をテーマに、お互いさまで見守り・支え合える地域づくりについて考えました。

また、本会職員が、ふれあいサロンや空き家の活用、地域見守り会議など、宍粟市内の支え合い活動を紹介し、「地域の宝物」を参加者全員で共有しました。

当日は、初めての試みとして各家庭で眠っている食品・食材を受け付け、たくさんのご協力をいただきました。その食品・食材は、**食のセーフティネット事業(生活困窮者支援)**の取り組みに活用しています。

読者の
感想より

2月号のひ孫といっしょの大前肥子先生、本当になつかしいです。小学校1年2年と担任をして頂きました。いつも心のどこかにある先生です(波賀町 女性)



「認知症になっても安心な地域をめざして」…各支部の会場には福祉委員406人が参加(7/13 千種保健福祉センター)

支え合いに大切な 人づくり、関係づくり

●福祉委員研修会を支部ごとに開催し、認知症をテーマに事例を交えながら、福祉委員に求められる4つの役割『みつける・しらせる・つながる・ひろめる』について考える機会をつくりました。

●第6期となったセカンドライフ応援セミナーでは、元気な地域づくりをテーマに、集いの場や居場所づくりをお手伝いする近所

サポーターを養成(手打ちそば作り、認知症サポーター養成研修など)し、仲間づくりと地域活動への参加を応援しました。

●災害ボランティア活動の啓発とネットワークづくりを目的に災害市災害ボランティアネットワークを立ち上げ、11月には、災害市総合防災訓練に参加し、本会職員と災害ボランティアセンターの開説訓練を行いました。

●学校や地域、事業所等で福祉を学べる機会としてふくしの出前講座(福祉学習会)を行い、職員をはじめ、それぞれの分野の専門職



災害V養成講座の受講者に呼びかけ「災害ボランティアネットワーク」を結成(6/15 災害防災センター)

や障がいのある方、ボランティアのみなさんが講師(ゲスト)として参加・協力しました。

●28年度から配置の生活支援コーディネーターは、居場所や集いの場の立ち上げ支援、近所サポーターの養成、地域の宝物リストの作成等、2年間の活動や成果が力タチとして見えてきました。

今後は、旧町域や校区等で設置の委員会等に関わりながら、地域で暮らし続けるための支え合いを生み出す(仕組みをつくる)「地域を元気にするための協議の場」づくりを進めていきます。

3年次の計画を 着実に推進するために

30年度は、支え合いふくしプランの3年次として、地域住民をはじめ、関係団体、専門機関、行政等とのつながりや連携を今まで以上に大切にしていきます。

見守り活動や防災、当事者支援、結婚促進など、連携なくしては進めることが出来ない取り組みばかりであり、これらを進めるためには行政等との情報共有体制の構築が不可欠です。

また、本会理事と職員で支え合いふくしプランの重点事業について調査・研究を行う役員業務研究会を継続的に実施し、地域福祉サービスの資源開発や事業の推進に繋げていきます。

計画の進捗状況については、第3次地域福祉推進計画を進める会で点検・評価を行い、新たな課題には適宜対応していきます。

(地域支援課長 波多野好則)



役員業務研究会3班では、福祉学習をテーマに調査・研究を行っています。進捗状況は6頁で紹介(12/14 山崎小4年 車いす体験)

読者の
感想より

ひとり暮らしです。いつもお世話になってます(波賀町 女性)

や

まさき

おいしいたのしいひなまつり♪

いずみ会の食育活動

宍粟市いずみ会は、郷土料理や伝統的な食文化を次世代に伝えるために、子どもから大人まで幅広い世代に食育活動をされています。10数年前から、当会城下地区の会員が中心となり、ひなまつりには同地区の幼稚園や保育園で寿司などを作り、園児と交流されています。

みんなが元気に遊べるように見守ってくれているんだよ」と園児たちに声かけされました。中田満子園長は「伝統行事を通して、四季折々の食事やおやつを知るいい機会になっています」といずみ会のみなさんに感謝していました。子どもたちが、地域の方々と交流し、伝統文化に触れ、食べ物に感謝できるような取り組みが、今後増えるといいなと感じました。

(山崎支部 山本めぐみ)

2月26日(月)には、城下幼稚園(園児30名)で「おひなまつり会」が行われ、栄養満点のケーキ寿司や3色団子を作られました。会員の高勝子さんは、「アレルギーのある子には材料を替え、見た目はどの子も同じ。みんなで楽しく食事ができるよう工夫してるんですよ」と話されます。また、「お雛さまは、



「いずみ会のみなさんありがとうございます」と、あいさつの後「ホンマのケーキみたい」とおいしそうに食べる子どもたち。ハウレンソウ・鮭・ゴマ・卵のケーキ寿司(城下幼稚園)

い

ちのみや

優しく声をかけてお手伝いしたい

神戸小「福祉体験学習」

神戸小学校の4年生25人が、2月8日(木)から4日間にわたり、アイマスクや車いす体験、点字教室や当事者を招いた盲導犬学習など、福祉体験にチャレンジしました。

最終日の2月15日

(木)は、重りやサポーターを装着し、廊下や階段、手すりなどを使いながら、高齢者の疑似体験を行いました。「膝が曲げにくくて、

耳も聞こえにくかった。家のおばあちゃん、いつもこんなに大変なんだね」「階段を下りる時が怖かった。手を貸してもらえると安心した」「お年寄りには、ゆっくり優しく声をかけてお手伝いしたい」との感想がありました。

高齢者や障がいについて理解を深めたり体験をすることで、相手の立場になって自分ができることを考えたり、地域のみんなでお互いに助け合って暮らしていることを学ぶきっかけにできたようでした。

児童のみなさん、今回の体験を通して、声をかけてお手伝いしたいと感じた優しい気持ちを大切に学校生活を過ごしてくださいね。

(二宮支部 上川あゆみ)



「手すりや杖がないと怖いなあ」「大丈夫? ゆっくり、ゆっくり…気をつけて」(神戸小学校)

や・い・は・ち トピックス

は
が

みんなで質問をしながら制度やサービスを学びました
(メイプル福祉センター)

今回の学習会を受け、新たにサービス申請された方や同じ障がいのある方に教えてあげたいとの声が多く聞かれ、有意義な学習の場になりました。

今後、障がいのある方々の声を大切に、みなさんが地域で安心して生活できるよう、社協はお手伝いしていきます。
(波賀支部 田中祥仁)

2月21日(水)、メイプル福祉センターにおいて、宍粟市身体障害者福祉協会波賀支部の「会員ふれあい学習会」が行われ17人が参加しました。

学習会は、「障害者手帳のこ

とや利用できるサービスを知らないので学ぶ機会を作ってほしい」との会員の声から企画され開催に至りました。

講師に宍粟市健康福祉部障害福祉課の職員をお招きし、障がいの種類や特性、利用できる制度やサービスなどわかりやすく説明していただきました。

参加した船積司(ふなづみ)さんは、「いろいろなサービスがあっても知らんと損をすることがいっぱい。みんなで質問をしながら話を聞けてとてもありがたかった」と話されました。

知らんと損をすることがいっぱい

身体障害者福祉協会波賀支部

ち
くさ

「ふくし」ってしあわせなこと

千種小学校4年生

2月23日(金)、千種小学校4年生16人が、福祉について理解を深め、お互いに思いや考えを伝え合うことについて学びました。

『「ふくし」って何だろう?』との問いかけに児童たちは「健康なこと」「しあわせなこと」「安全なこと」等たくさん声を聞かせてくれました。

自分たちの地域には、様々な人が住んでいることを千種町の人口ピラミッド(年齢別グラフ)で確認すると、「公民館に貼ってあったで。すごい高齢化率やな」と、グラフに興味津々でした。

「健康だから気づかないことがあると知った。みんなで気遣いができるようにになりたい」「困っている人がいたら手伝いたい」と、自分のことだ



授業では、たくさん活発な意見がでました(千種小学校)

けではなく、周りの人も大切に思う気持ちを、児童たちは学んだようです。

今回の学習で、すべての命は同じように大切でかけがえないものであり、その人らしさを認め合いながら、ともに生きていくことの大切さを共有できました。

今後も社協では、子どもたちの福祉の心を育てるため、学校での体験学習をはじめ幅広い視点で福祉学習に取り組んでいきます。

(千種支部 横山洋子)

私たちの自治会もだんだん人数が減り、若い人たちが帰って楽しめる宍粟にしたいです(山崎町 女性)

グループとして活動開始 「お出かけ会アイちゃん」



情報を共有する場が
必要です

2月16日(金)、宍粟防災センターにおいて、視覚に障がいのある方の社会参加を支援する「お出かけ会」のメンバーが集まりました。

STT(サウンドテーブルテニス)や青い鳥学級、身体障害者福祉協会の行事に参加する方への支援等を行う中で、「1対1の支援で相手を知ることが出来る」「活動のあとの振り返りが大切」といった意見が聞かれました。

また、相手の立場に立った支援ができるよう研修も計画していこうと話し合いが行われ、『お出かけ会アイちゃん』のグループ名で活動していくことになりました。

これからも、視覚に障がいのある方に寄り添った“アイちゃん”の活動を応援していきます。

(千種支部 小原志のぶ)

子どもたちが福祉を学ぶ環境の整備 ～支え合いふくしプラン重点事業③～



2月13日には、
学校を訪問し、
換を行いました
神野小
意見交

福祉への理解と関心を深める取り組みとして、学校が実践している福祉学習の状況について調査するため、本会の役職員が、市内の各小中学校、および高等学校等を訪問しました。(24校に訪問)

どの学校も好意的に受け止めていただき、アンケートに対し先生方から前向きな意見が聞かれました。そして、子どもたちが「相手を思いやる気持ち」を育むきっかけとして、福祉学習が大切な役割を果たしていることを確認することが出来ました。

今回のヒアリングやアンケート結果をもとに、各学年や小中高連続した「福祉学習プログラム」の提案につなげていきたいと思ひます。

(役職員業務研究会3班 責任者 東 由美)

24時間テレビから “入浴専用車、贈呈!”



「全国の皆さまから寄せられた募金で購入していますので、未永くお役立てくだされ」と森本会長へ

このたび、公益社団法人24時間テレビチャリティ委員会から、本会に入浴専用車両「トヨタライエース」1台が贈呈されました。

2月28日(水)、一宮保健福祉センター玄関前にて贈呈式が行われ、読売テレビ24時間テレビ事務局の萩原様から、本会の森本都規夫会長にゴールドキーが手渡されました。

贈呈された入浴専用車は、瞬間湯沸かし器と大型浴槽、給湯ホースなどを搭載し、ご自宅の中で快適に入浴いただける4WD仕様の車両です。

スタッフ一同、これからもご利用者のみなさまに心も体も温まるサービスに心がけながら、入浴車を大切に使用していきます。

生活支援コーディネーター日誌

地域で暮らし続けるための生活支援!



セカンドライフ応援セミナーで「なないろ」が実践発表&意見交換

『しろう生活サポーターズ なないろ』は、市内全域を対象に既存のサービスでは対応できない**日常生活の困りごとをお手伝いする=生活支援**を行う有償のボランティア活動をされています。

昨年4月に活動をスタートし、現在は9人のサポーターで、支援を必要とする方の家事代行や店で待ち合わせて買い物のお手伝い、通院のために送迎車に同乗したりと活動は多岐に渡ります。また、施設に入所されている方が家族と外出して食事をする際の介助など、専門的なサポートもされています。

こうした**生活支援の取り組み**が、地域に増えていくことで、元気なうちは支える側、困った時には助けてもらえる。そんなお互い様の**“支え合いの地域づくり”**をいっしょに進めていきましょう!(森井裕矢)

